

ここ数年続く新型コロナウイルスが招いた未曾有の災禍により、我々の社会は日々の生活、働き方など様々な大きな影響を受けました。この災禍の影響、日本経済の停滞などは今後も続く可能性が高く今のところ出口が見ない社会的に不安定な状況で感染防止を意識した生活様式はもはや常態化した感があります。

我が家では2年連続で子供の高校受験と相まって巣ごもり生活を余儀なくされ悶々としていましたが、家族共通の趣味であるアウトドアを模して「おうちキャンプ」などで少しでもストレスを貯めずに楽しんで生活を送れるように工夫する日々でした(家族に気を使いながら・・・)。

他方、仕事においてはコロナ禍の豪雨災害に伴う道路災害復旧調査・設計業務を代表として、感染予防対策を考慮した難しい業務マネジメントに直面しましたが、近年のテレワークなどICT技術の目覚ましい進化により社内外の人とのコミュニケーションの容易性を実感しながら、マネジメントの効率化を図り実行に移すといった日々を送っていました。

このような不安定な社会だからこそ、柔軟に問題解決に対応できる「技術士」という資格の真価が問われるのだと思います。そして自らの力で資格を活かしてこそ、その価値が出せるのだと感じます。

これからも長い技術者人生において様々な社会的課題・問題が待ち受けてると思いますが「技術士」として「ポジティブな仕事」の捉え方や進め方、さらには人との多様なコミュニケーションの取り方などを模索し有意義な技術者人生を過ごせるよう精進していきたいと考えています。

## 波多野 雅浩 (はたの まさひろ)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

パブリックコンサルタント株式会社



→次号は、大森孝行さん(建設部門)

私は、2009年度(平成21年度)に技術士補、2010年度(平成22年度)に技術士農業部門(農業土木)の試験に合格しました。その後技術士としての実務経験を重ねるなかで、自身のスキルアップを目指し業務のみではなくもっと広く会社全体の管理技術を学びたいと考えるに至り、2017年度(平成29年度)に総合技術監理部門を受験し合格しました。

数回の転職や移住をしたことで、大都市の職場から地方の職場までを経験し多種多様な人と触れ合う経験をしました。その中で、どんな環境にでも適応できる能力を身につけることができたと考えています。「鈍感力」と表現されることがありますが、ストレスを溜めずにポジティブな考え方を持つことは、長く仕事を進めていくうえで必要な能力と考えています。

もう一点、仕事を円滑に進めるために必要なものとして「愛嬌」を挙げさせていただきます。私の仕事は発注者である公務員のみならず、農業施設を実際に管理・使用する農家さんと接する機会が多々あります。その際に、相手の要望や不満を聞き取り、こちらの提案も聞いてもらい、最終的によりよい設計をするためには、まずは相手の懐に入り込むことが必要となります。相手から接しやすいと感じてもらえるよう、常に笑顔での対応を心がけています。

まだまだ未熟な私ですが、自分自身が一歩でも前進し成長できるよう日々の研鑽を積んでいくと同時に、若手技術者の技術力向上のために少しでも力になればと考えています。

## 村山 和佳 (むらやま わか)

●農業部門(農業土木)

●総合技術監理部門(農業)

勤務先

株式会社ズコーシャ  
技術部設計二課



→次号は、山本和敏さん(建設部門)